

統計研修講義計画書

研修課程	統計オープンデータ 利活用	講義科目	自治体のケーススタディとし て～京都市の取組～	講義時間	60分
講 師	井上 景介 京都市総合企画局情報化推進室統計解析担当				

講義のねらい

旧来のような経験と勘によらない、証拠に基づく政策立案（Evidence-Based Policy Making）や、それを支える統計データの重要性が近年ますます高まっている。このような中、京都市では、「e-Stat」のAPI機能を活用した統計データの可視化アプリの公開、オープンデータポータルサイト「KYOTO OPEN DATA」の開設など様々な取組を重ねてきた。本講義では、そうした取組を自治体のケーススタディとして紹介したうえで、統計オープンデータの利活用推進についてグループワークを行い、受講者の方々の統計オープンデータへの理解を更に深める一助とする。

指導項目と内容

指 導 項 目	内 容
京都市における取組の紹介	次の取組を紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「京都市統計ポータル」開設に至るまでの道のり ・「次世代統計アプリ」の機能 ・「KYOTO OPEN DATA」とデータ活用事例 など
グループ演習	統計オープンデータの利活用推進をテーマに、ブレインストーミングからアイデア発表、グループ間での気付きの共有に至るまでのグループ演習を行う。

講義形態 指導方法	PowerPointによる座学、及び受講者によるグループワーク
受講に必要な 基礎知識等	統計データに関する基本的な知識